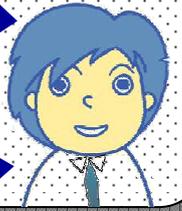




ねっとわーく



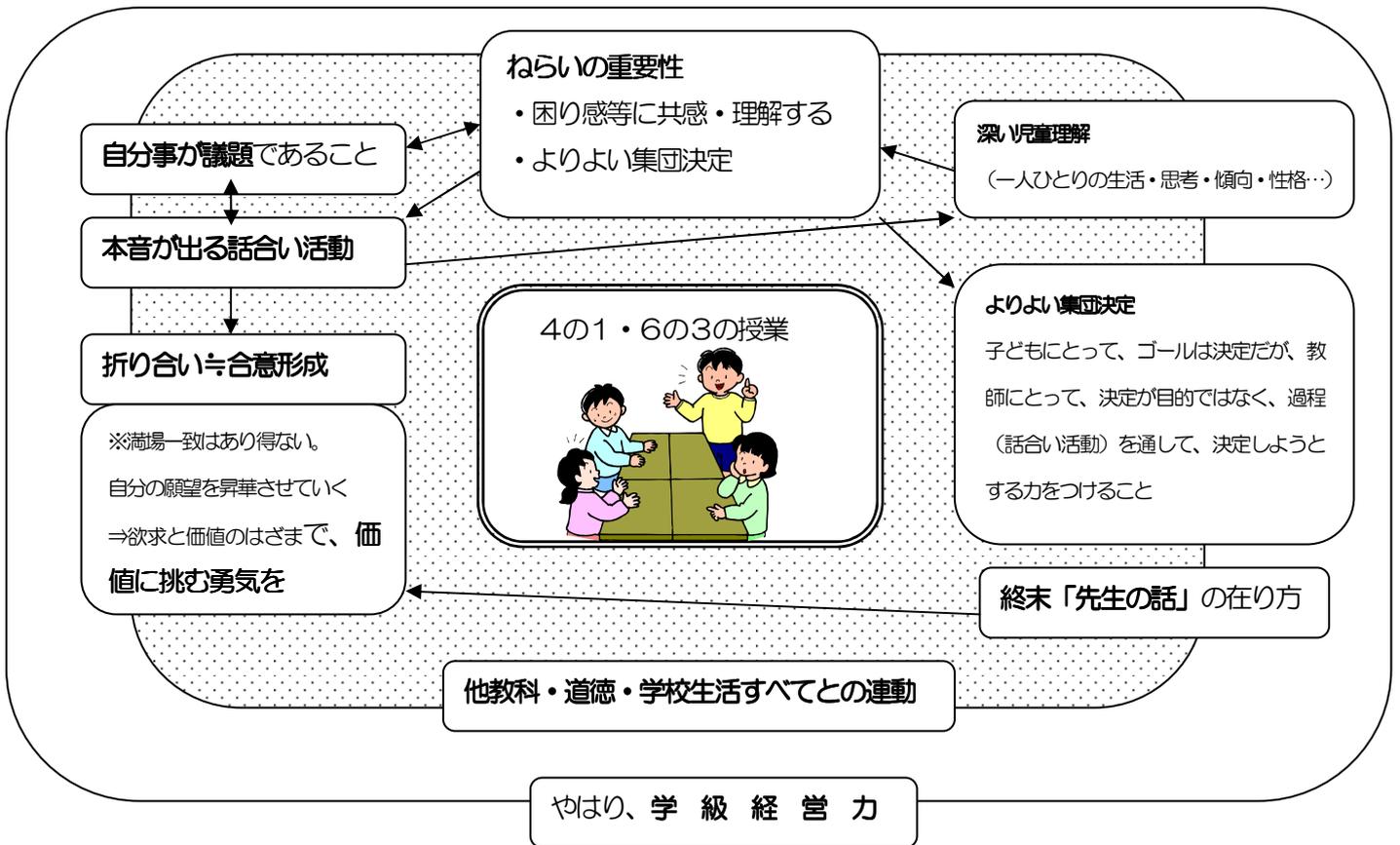
H24. 05. 17 No.11

■授業実践を通して、理論をふり返るという価値

15日は、第一回目の授業研究会でした。東海林先生、クラブ活動云々といった忙しい中、貴重な授業を提供いただきありがとうございました。

自分も授業をしたわけですが、やはり、理論と実践を照らし合わせると、いろいろと見えてくるものがありました。今、自分の一番の悩みどころが、「実践からみえてきたことの積み重ね&学校全体（職員間）の共有化」です。どんなふうにすると、授業者だけでなくみんなのものになるかなあと…（ま、子どもたちに「ふり返りが大事だ!」と言ってるだけに（笑）

「共有化（もしくは共通理解）って事後研じゃん!」なのですが、その時間にわたしたちが学んだことを可視化して、血や肉にしていきたいと思っています。詳しくは、研究推進委員会を通して提案していきますが、今、頭の中にかんじていることを図化してみました。（あ、まとまってない段階ですのであしからず）



今回の事後研の形式は、研究推進委員会を受けて、主に司会者であった高橋圭子先生が仕組んでくださいました。自分がこれまで経験したことのない、素晴らしい画期的なワークショップだったと思います。また三浦先生からも可視化いただき、より理解が深まりましたよね。本当にありがとうございました。

で、こういうの、個人的には10月19日の事後研でもやりたいなあと思ったところです。とすると、分科会は各学年にお任せということになりますので、司会力やら板書力といった部分も私たち自身の研修になりますね。いわゆる、おー・じえい・てえー（OJT…On the Job Training）ですね。

